

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	株式会社オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム（コスモスユニット）		
所在地	静岡県湖西市岡崎2254－2		
自己評価作成日	令和3年3月3日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jigyosyoCd=2298400017-006&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピールしたい点として各職員が入居者様1人1人に対し体調や気分も考慮しながら外出 支援やレクリエーションなどの声掛けを行って頂けている点が挙げられます。他の入居者様との関わりが難しい方でも職員の声掛けにより孤独に過ごすといったことがないようにして下さって入居者様からも笑顔が多く見られています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目となり、職員17名の内介護福祉士取得者が15名、介護支援専門員資格を有する職員が4名、計画作成担当者となる人は5名と、プロ集団が形成されています。5年以上の勤務者が半数を越え、在職率も高いことから、ユニット内の事はリーダーを中心に解決できる安心の体制にあります。本年度はコロナ禍で取りやめていますが、年2回おこなう家族会では職員も含め総勢50名が集まり、春と秋には日帰り旅行も企画する活気ある事業所です。昨年10月に法人内の異動で着任した新管理者は、新しい理念を職員みなんで考え、コロナ終息後には従来の取組みの復活と新たな交流企画への意欲を膨らめています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者の変更により事業所の理念の見直しが必要となった。現状、掲示・確認は行えていない。	法人理念はありますが、事業所理念はまだ決まっています。勤務6年目、異動で昨年10月に着任した新管理者が職員の意識統一のために事業所理念を創ろうとしており、職員総意でつくりたいと現在準備中です。	職員でつくった理念が実践につながるよう、理念に基づく個人目標の設定をおこなうなど、達成への仕組みを考えていくことを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により買い物、外食等の支援ができておらず、外部との接触が殆どない。	コロナ禍で「オハナカフェ」「老人会主催のカフェ」などは中止ですが、管理者が交代した件については書面で町内会長に伝えており、回覧板で地域情報は得られています。コロナ終息後はカフェの再開、ボランティアの導入、保育施設との交流を視野に入れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍に運営推進会議やオハナカフェといった地域との交流ができていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催を見送っており、資料のみ市に提出している。	令和2年1月を最後に運営推進会議は開催していません。前任者からの引継ぎで、入退去等の利用者報告と活動の写真を掲載した書面を2～3ヶ月ごとに湖西市の窓口へ提出、メンバーには「延期のお知らせ」を郵送しています。	運営推進会議の隔月開催ならびに行政出席は条例下の取り決めのため、書面開催を期待します(2ヶ月分の活動内容をまとめ、メンバーに発送。FAXや電話などで意見を収集して、そのうえで議事録にまとめ、行政提出をおこなう)。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や手続き以外では足を運ぶことは少ないが、協力は出来ていると感じる。	介護保険の更新や区分変更、事故報告書の提出で市役所の窓口には月1、2回出向いています。管理者となって疑問点もあり、困ったときには電話での質問でも気軽に答えてもらえ、大変心強い存在です。介護相談員はコロナ対策の一環で中止となっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設対策として12:30～10:00の間は施錠している。定期的に評価を行い緩和に向けて対応を検討していく	「身体拘束適正化委員会」を3ヶ月毎(6月、9月、12月、3月)に開催しています。現在玄関は10:00～12:30の間は開錠していますが、帰宅願望のある利用者の離設対応では、解除できる時間帯を増やそうとの話し合いもみられ、現場に即した場としていることが議事録から確認できます。	身体的拘束等適正化に係る取り組みはありますが、改めて書面整理をおこなうとともに、記録で実施が確認できることを期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	怪我があった際にはインシデントの作成により原因・対策を考えて情報の共有を行っている。勉強会は行えていないが職員同士で確認し合っている。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は出来ておらず、理解出来ていない職員が多い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について特にトラブルは起きていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やケアプランの説明等の機会に近況報告を行った上で要望を聞き、可能な範囲で対応している。	年2回の家族会は中止となり、相談室でできていた面会も年末以降は断ることとなっています。そのため、個人宛の「日ノ岡グループホームだより」には最低3枚の写真を掲載、職員・管理者からのコメントを添え、暮らしの様子が少しでもわかるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こちらから声を掛ける以外に、職員の方からも気になる事があれば意見を頂けている。	5年以上勤務者が半分以上、職員17名の内介護福祉士取得者が15名というプロフェッショナル集団です。毎月、職員会議とユニット会議を開催、テーマやねらいに沿って進行しつつも、意見を聞く場として一人一つは意見を出してもらうよう、声をかけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より入居者様に対する対応で取り入れたい事の相談があれば無理のない範囲で実践してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により現在外部研修の殆どの参加を見合わせている。内部研修は開催されており、その旨を告知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加が出来ておらず交流の機会を作れていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報を基に本人の話を傾聴し、安心して共同生活を送ることが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも安心して頂けるよう不安や要望を聞き、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い必要な支援を見極め、適切なサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いの依頼やレクリエーションへの参加、コミュニケーションを通し共に過ごす時間を作り関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を伝え対応を相談させて頂くことで本人とご家族様の関係を保ち共に支援する関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた理容店に出かけたり、ご家族様や知人と電話や手紙のやり取りをしている。	「そろそろ髪を切りたい」と声にする人、パーマをかける人、カラーをする人たちは馴染みの美容院に通っています。個人で新聞購読したり、昔取った杵柄で裁縫に勤しむ人、外出が好きな人には職員が旅行誌を持ち寄り、一緒に旅行したかのように話が弾んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し家事やレクリエーションを通じて関わる事が出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には入居中に撮った写真やレクリエーションで作った作品を渡している。退居後も相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の様子や会話から本人の希望や意向を出来るよう努めている。意思表示が困難な方は生活歴やこれまでの様子から本人本位に検討している。	「昔こんなことが好きだった」という家族からの情報も参考にして、入居後一週間内にアセスメントシートを作成しています。声となる人にはできる限り希望に沿い、言葉の伝達が難しい人は生活歴から好みを掴み、表情を汲むなど模索しながら意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人から話を聞いたり、ケアマネージャーと連絡を取ることで情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子や記録などから現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で情報交換を行い、ご家族様や本人の意見を反映させて介護計画を立てている。	介護支援専門員4名、実践者研修修了者5名と本件も専門職が潤沢です。介護支援専門員が介護記録から特記事項を「支援経過表」に拾い出し、職員からの聴取も合わせ、介護計画書の変更につなげています。実践記録の書き方は職員で差があるため、指導中です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送り、フロア会議などで情報の共有を行いより良いケアにつなげることが出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの話や意向、本人の希望や現在の状況からニーズを把握し、適切なサービスが提供出来るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により現在、地域資源の活用が困難な状態となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の訪問診療や本人の希望・必要に応じて専門医への受診対応を行っている。	18名全員が毎月訪問診療をおこなう協力医に変更しています。立ち合いは管理者がおこない、「訪問診療受診ファイル」に記録しています。専門医(眼科・皮膚科・整形外科)への受診支援は職員が担当、家族へは電話で報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化は都度看護師に報告・相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設での生活の様子や医療面の情報などを正確に伝えている。退院に向けて医療機関の相談員と連絡を取り合うことで現状を把握し、退院時の受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に予め説明・確認を行っている。実際に必要になった場面では医療機関と連携し可能な限りの支援を行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき家族には説明し、医療体制が十分でない理由から「看取りはおこなっていない」ことへの了承を得ています。「できる限り居させてほしい」という本人と家族の意向に極力沿い、経口摂取出来る間は状態が重くなっても対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを掲示し全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を日中・夜間想定で行っている。	例年は消防署の立ち合いを求めています。今年は事業所のみで年2回(7月、1月)、夜間想定も含め地震・火災における避難誘導訓練を実施しています。停電時の備えとしてランタン、懐中電灯を揃え、備蓄食料品は3日分を事業所で管理しています。	実情に即した災害対策がおこなわれることを期待します。(例、「火災の場合、消防署も近いことから通報から消防車到着までにおこなうことを明確にする」「備蓄食料品のリストを作成する」)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議の際に接遇の勉強会の報告を行うなど入居者様の尊厳を損ねないような対応、言葉遣いを心掛けている。	年に一度は接遇に関する外部研修を代表の職員が受けることとし、帰所後に職員会議で報告することで全体で共有していますが、今年度はズームをスクリーンに投影して聴講しています。丁寧語か否かよりも信頼関係を重視して、職員指導にあたっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から意思表示をすることが難しい方でも、希望を聞き自己決定が出来るように声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に1人1人の意向に沿った支援は難しいが、可能な範囲でそれぞれのペースで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で行える方には服を選んでもらったり身だしなみを整えてもらっている。介助が必要な方には職員が介助を行い身だしなみを整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや季節に合わせたメニューを作成し、調理に参加してもらったり片付けなどを行ってもらっている。	ご飯と汁物は常に各ユニットで用意していますが、日曜日以外は外部から届けられています。雑祭やクリスマスには外注をストップして、行事にちなんだ献立提供とし、また週に一度はおやつ作りをおこない、訪問日はちょうど「いちご大福パン」の日でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を1人1人に合った形で提供している。水分についてはトロミを使用したり水分補給ができるゼリーを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが難しい方には職員が介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表でパターンを把握しています。独歩でトイレにゆけるものの失敗してしまう人に、掴んだ排泄リズムで職員が声をかけて誘導することで失敗が減った例もあります。一方で立位保持が難しく終日オムツで、ベッド上での交換となっている人も2名います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や難消化性デキストリンを活用したり体操を行ったりすることで自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日・時間を決めてはいるが、本人の体調や希望により入浴日や時間を調整し柔軟に対応している。	週2回を目安としています。コスモスユニット設置されたリフトの利用者は約半数と増え、職員の負担も大きくなっていますが、湯は一人ひとり変え、菖蒲湯や柚子湯の時節風呂のほか、入浴剤2種類を用意して選ぶ楽しみをもってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気浴やレクリエーション、体操などを行って頂き、生活リズムを整えられるよう心掛けている。無理のない範囲で行い、日中の休息や夜の就寝時間は1人1人に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をすぐに見られるようファイリングしている。変更があった際には都度申し送りをを行い与薬ミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職業歴などから得意な事、好きな事、出来る事を見つけ、役割を持つことが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出支援に制限が掛かってしまっている。外気浴・散歩・ドライブなど人混みを避けての外出支援を行っている。	これまでは春と秋に日帰り旅行を企画していましたが、今年度は中止となり、その分職員配置が手厚い時間帯でのドライブを増やしています。菜の花や桜を見にいたり、蜜柑のお土産を買ってきたりもしています。好天には広い敷地を散策して、ベンチで休養する人もいます。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様は現金を所持しており、必要に応じて使うことが出来るように支援している。現金を所持していない方でも希望に応じて立替という形で物品購入の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様は携帯電話を所持しており自身で電話を掛けている。他、手紙のやり取りを行っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってフロア内の掲示物や写真を変更し、季節を感じられるようにしている。	毎食事前後にテーブルのアルコール消毒をおこない、床清掃は空拭きの後、水モップに薬剤を含ませて拭いています。居室は起床後開放で、リビングは温かくなってきた時間を見計らって開け、換気にも気遣っており、衛生管理に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を考慮して席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て頂けるようご家族様をお願いしている。本人とも相談して居室内のレイアウトを決めている。	衣装ケース、タンス、テレビ、テレビ台、ベッド回りの小物、孫やペットの写真、時計、枕や毛布、鏡台とそれぞれの趣が感じられる多様な持込みがあります。水筒を持参している人は、いつでもお気に入りの紅茶が飲めるよう職員が白湯を入れています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で安全に過ごして頂けるよう配置や整頓に気を配っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	株式会社オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム（なの花ユニット）		
所在地	静岡県湖西市岡崎2254－2		
自己評価作成日	令和3年3月3日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jigyosyoCd=2298400017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピールしたい点として各職員が入居者様1人1人に対し体調や気分も考慮しながら外出 支援やレクリエーションなどの声掛けを行って頂けている点が挙げられます。他の入居者様との関わりが難しい方でも職員の声掛けにより孤独に過ごすといったことがないようにして下さっていて入居者様からも笑顔が多く見られています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目となり、職員17名の内介護福祉士取得者が15名、介護支援専門員資格を有する職員が4名、計画作成担当者となれる人は5名と、プロ集団が形成されています。5年以上の勤務者が半数を越え、在職率も高いことから、ユニット内の事はリーダーを中心に解決できる安心の体制にあります。本年度はコロナ禍で取りやめています、年2回おこなう家族会では職員も含め総勢50名が集まり、春と秋には日帰り旅行も企画する活気ある事業所です。昨年10月に法人内の異動で着任した新管理者は、新しい理念を職員みなんで考え、コロナ終息後には従来の取組みの復活と新たな交流企画への意欲を膨らめています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者の変更により事業所の理念の見直しが必要となった。現状、掲示・確認は行えていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により買い物、外食等の支援ができず、外部との接触が殆どない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍に運営推進会議やオハナカフェといった地域との交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催を見送っており、資料のみ市に提出している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や手続き以外では足を運ぶことは少ないが、協力は出来ていると感じる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設対策として12:30～10:00の間は玄関を施錠している。定期的に評価を行い緩和に向けて対応を検討していく		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	怪我があった際にはインシデントの作成により原因・対策を考えて情報の共有を行っている。勉強会は行えていないが職員同士で確認し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は出来ておらず、理解出来ていない職員が多い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について特にトラブルは起きていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やケアプランの説明等の機会に近況報告を行った上で要望を聞き、可能な範囲で対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こちらから声を掛ける以外に、職員の方からも気になる事があれば意見を頂けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より入居者様に対する対応で取り入れたい事の相談があれば無理のない範囲で実践してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により現在外部研修の殆どの参加を見合わせている。内部研修は開催されており、その旨を告知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加が出来ておらず交流の機会を作れていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報を基に本人の話を傾聴し、安心して共同生活を送ることが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも安心して頂けるよう不安や要望を聞き、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い必要な支援を見極め、適切なサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いの依頼やレクリエーションへの参加、コミュニケーションを通し共に過ごす時間を作り関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を伝え対応を相談させて頂くことで本人とご家族様の関係を保ち共に支援する関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた理容店に出かけたり、ご家族様や知人と電話や手紙のやり取りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し家事やレクリエーションを通じて関わる事が出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には入居中に撮った写真やレクリエーションで作った作品を渡している。退居後も相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の様子や会話から本人の希望や意向を出来るよう努めている。意思表示が困難な方は生活歴やこれまでの様子から本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人から話を聞いたり、ケアマネージャーと連絡を取ることで情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子や記録などから現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で情報交換を行い、ご家族様や本人の意見を反映させて介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送り、フロア会議などで情報の共有を行いより良いケアにつなげることが出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの話や意向、本人の希望や現在の状況からニーズを把握し、適切なサービスが提供出来るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により現在、地域資源の活用が困難な状態となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の訪問診療や本人の希望・必要に応じて専門医への受診対応を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化は都度看護師に報告・相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設での生活の様子や医療面の情報などを正確に伝えている。退院に向けて医療機関の相談員と連絡を取り合うことで現状を把握し、退院時の受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に予め説明・確認を行っている。実際に必要になった場面では医療機関と連携し可能な限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを掲示し全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を日中・夜間想定で行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議の際に接遇の勉強会の報告を行うなど入居者様の尊厳を損ねないような対応、言葉遣いを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から意思表示をすることが難しい方でも、希望を聞き自己決定が出来るように声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に1人1人の意向に沿った支援は難しいが、可能な範囲でそれぞれのペースで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で行える方には服を選んでもらったり身だしなみを整えてもらっている。介助が必要な方には職員が介助を行い身だしなみを整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや季節に合わせたメニューを作成し、調理に参加してもらったり片付けなどを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を1人1人に合った形で提供している。水分についてはトロミを使用したり水分補給ができるゼリーを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが難しい方には職員が介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や難消化性デキストリンを活用したり体操を行ったりすることで自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日・時間を決めてはいるが、本人の体調や希望により入浴日や時間を調整し柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気浴やレクリエーション、体操などを行って頂き、生活リズムを整えられるよう心掛けている。無理のない範囲で行い、日中の休息や夜の就寝時間は1人1人に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をすぐに見られるようファイリングしている。変更があった際には都度申し送りをを行い与薬ミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職業歴などから得意な事、好きな事、出来る事を見つけ、役割を持つことが出来るように支援している。。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出支援に制限が掛かってしまっている。外気浴・散歩・ドライブなど人混みを避けての外出支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様は現金を所持しており、必要に応じて使うことが出来るように支援している。現金を所持していない方でも希望に応じて立替という形で物品購入の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様は携帯電話を所持しており自身で電話を掛けている。他、手紙のやり取りを行っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってフロア内の掲示物や写真を変更し、季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を考慮して席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て頂けるようご家族様をお願いしている。本人とも相談して居室内のレイアウトを決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で安全に過ごして頂けるよう配置や整頓に気を配っている		